



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN  
**佐土原ロータリークラブ週報**



Bhichai Rattakul  
 RI President, 2002-03

**慈愛の種を  
 播きましょう**

2002-2003年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリー理解月間

第771回 平成15年 1月 8日(水)

〔本日のプログラム〕

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 点        | 鐘 |
| 2. ロータリーソング |   |
| 「奉仕の理想」     |   |
| 3. 四つのテスト唱和 |   |
| 4. 食        | 事 |
| 5. 会長の時     | 間 |
| 6. 幹事報      | 告 |
| 7. 委員会報     | 告 |
| 8. 点        | 鐘 |

新年家族懇親会

次回予告

- ★ 1月15日(水)  
 フォーラム  
 (ロータリー理解月間にあたって)  
 1月のセレモニー  
 理事・役員会
- ★ 1月22日(水)  
 会員卓話

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日 (12:30~13:30)	会長	宮原 建樹
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	林 厚雄
事務局	宮崎郡佐土原町大字下那珂3887-17	幹事	中武 幹雄
	☎880-0212	会計	佐藤 高元
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

# 第 770 回例会記録

(2002. 12. 25)

## ☆会長の時間

会長 宮原建樹君

皆さん今晚は。

本日は第750回で、上半期最後の例会になります。後で懇親会を行います。

今日は来年1月の新年家族懇親会での入会のお二人、水浦君と岩切君をゲストとしてお迎え致しました。

水浦君は先だって少しご紹介致しましたが、岩切君はまだ紹介しておりませんでした。

お二人共、私が良く知っておりますが、とてもロータリアンとして相応しい方とお見受け致しております。

来年の入会式が非常に楽しみです。

さて、激動の平成14年も後少しで暮れようとしておりますが、皆さんは今年1年、どのような年でございましたでしょうか。

色々ありましたね。

景気は益々悪くなっておりますが、北朝鮮に拉致されていた方の一部が帰国され、今年を表す文字として、【帰】が選ばれました。まだまだ解決してはおりませんが、何となくホッとしたニュースでした。

私の方は恙く、ほぼ順調に1年を終わろうとしておりましたのに、年末になり追突事故に会い、また、昨日は社員が接触事故を起こしてしまい、何か終盤はツイテ(?)おりました。友人が今、宝くじを買うと絶対当たるよ!と冗談を言ってくれました。

先週の例会で紹介しました、ガバナーからの濱田松太郎君への特別長寿表彰のお祝いを今日はきれいに額に収めてお渡し致します。おめでとうございます。これからもお元気でお仕事にロータリー活動にご活躍されることを御祈念いたします。

今夜はこのあとの懇親会を池田会員のレストランで、心づくしのフランス料理フルコースを戴きながら、この1年の反省と輝かしい来年に向けての抱負など、語りたいと思います。

お酒はたっぷりあります。楽しい懇親会に致したいと思います。

次期会長	中武 幹雄君
幹事	梶田與之助君
会長以外	林 厚雄君

(12月18日の年次総会にて発表)

## ☆幹事報告

幹事 中武 幹雄君

### 1. 例会変更及び休会通知

①平成14年1月2日(木)は正月のため、特別休会

高鍋 RC

### 2. ガバナー事務所 冬期休暇のお知らせ

2002年12月28日(土)

~2003年1月5日(日)迄

冬期休暇

期間中の緊急連絡は地区幹事

岩田泰一 (☎099-222-5202)

12月25日の花

ひいらぎもち(栗) (雑)

クリスマスケーキの上ののっている緑の葉と赤い実、それがひいらぎもち。別名をクリスマスホーリー

花言葉=清廉



Happy Voice

この度はガバナーより表彰状を戴きまして誠にありがとうございました。

今日まで頑張って来られたことは、偏に皆様のご協力の賜物と感謝致します。『継続は力なり』とつくづく感じております。

濱田松太郎



☆出席報告

副委員長 正岡文郁君

会 員 数	27名
例会出席者	20名
出席率	74%
メークアップ者数	2名
修正出席率	81%
欠席者名	藤岡、宮本、近藤、村岡、堀口

☆そろばんと論語

山 脇 忍 君

(ロータリー文庫 塚本義隆著 「そろばんと論語」より)

明治・大正時代における実業家の第一人者に渋沢栄一翁があります。

彼は明治5年に初めて我が国へ銀行制度を導入し、また、通貨制度を改革して、日本に自由主義経済の基礎を築き上げた人ですが、渋沢翁は常に『経済と道德の合一論』を説かれた。そして彼はこれを『論語とそろばん』と表現しました。

右手に算盤、左手に論語だと教えて、明治時代の財界人を指導されたことは有名であります。まことに明快な言葉です。車に車輪が必要な如く、単なる利益追求の一輪車では走れない。長続きしない。

『道德』というもう一つの輪を備えた上での利潤でなければ、多くの人の信頼は得られない。また、真の繁栄もありえない、と説いています。これもまたロータリーの人生哲学と極めて類似しております。それは決議二十三の三十四号であります。

今を去ること78年前、ロータリー国際大会がアメリカのセントルイスで開かれた折に、大会決議第二十三の三十四号として可決されました。これはロータリーの人生哲学とされ、今日もなお依然として生きているロータリー哲学であります。

『根本的にいうと、ロータリーは、自己のために利益を得ようとする欲望と、他人のために尽くさねばならないという義務感との間に、常に起きる心の中の争いを和解して調整しようとする人生の哲学である。この哲学はサービスの哲学、す

なわちService Above Self（サービス第一、自己第二）の哲学であり、そして  
He Profits Most Who Serves Best

（最もよくサービスするものに最大の利得あり）という実践的倫理の原則に基礎をおいている』この初めの標語ですが、最初に出た時はService Above SelfでなくてService Not Self（滅私奉仕）とあったのですが、それは行き過ぎだという反対が出たので、後にService Above Selfと直したのであります。

この標語は、ミネアポリス・クラブの初代会長フランク・コリンズというひとが提案したものであります。

また、He Profitは、アーサー・フレデリック・シェルドンが提案したものであります。シェルドンは『職業は自分の糧を得るためにのみあるのではない。本来世の中の人に役立つためにあるのだ。

利潤は必要だが、利潤が企業の目的ではない。世のため、人のために役立ってこそ、自ずから利潤は得られるのだ』そして、その繁昌する所以のものは『相手の身になって、人の役に立つよう願いながら職業に励むことだ』と気がつきました。そこでシェルドンは1908年に標語『He Profits Most Who Serves Best』を提案し、1911年のポートランド大会で決議されました。

## 神と獣の間

以上色々と引用して申しましたが、煎じ詰めればみな同じことを教えているのに気がつくと思います。

結局のところ、人間は神様ではないが動物とは違う。動物のような生き方、つまり、自己本位だけの生き方をす

れば、人間とは言えないということであり  
ます。

過去において、日本人はエコノミック・アニマルだと西歐人から悪口を言われたことがあります。

このような罵倒に対してわれわれは、素直に、心静かに反省が必要だと思います。

明治百年にして日本は物質文明を味わうことが出来たが、同時に、古い伝統の美しい心、気高い東洋道徳は、日本人の中から失われつつあります。

片や道徳の秤のバランスが崩れ去ろうとしています。私欲の方がピンと跳ね上がり、他人を思いやるサービスの精神が急降下しています。この時代こそ、ロータリーのサービス精神の運動が最も要求されて然るべきだと思います。

著名な実業家や役人がテレビの画面に、あるいは国会の議場におおぜい現れて、糾弾をうけたり、あるいは誤解を招いている如き事件が将来なおも続くとするならば、日本の自由主義経済体制は正に危機と言えます。

体制崩壊の危険なしとは誰も断言できないでしょう。

自己本位に過ぎる、憂うべき現世相に臨んでこそ、『サービス第一、自己第二』をモットーとする社会生活、個人生活に、われわれロータリアンは改めて挑戦すべきでありましょう。

